

令和4年度 文京区立礪川小学校 授業改善推進プラン

＜ 国語 ＞

学年	現状分析	具体的な授業改善策
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・話すことが好きな児童が多い。順序立てて話したり、話したことを文章で表現したりすることに課題がある。また、大事なことを落とさずに聞くことに課題が見られる。 ・自分の経験したことを書くことができる。文章の中で助詞「へ」「を」「は」を正しく使うこと、句読点を適切に使うこと、順序に沿って簡単な構成で書くことが、今後の課題である。 ・登場人物の気持ちや場面の様子を考え、想像を広げながら読むことができる。また、学習内容を広げたり、楽しんだりするために、すすんで本を読むこともできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2学期以降は、聞く学習をさらに重点化する。話し手が知らせたいことや自分が聞きたいことを落とさないように集中して聞くことを指導する。聞き取ったことを聞き返したり、相手に質問したりする対話の場を多く設定する。 ・手本となる定型文を提示しながら、文を読んだり書いたりさせ、主語と述語で書く文章に慣れさせる。日記や感想文、相手意識をもった説明文等を継続して書かせることで、書く意欲をもたせると共に、文を書く経験を増やす。 ・登場人物の気持ちや行動にサイドラインを引いたり、想像を広げて吹き出しや手紙を書いたりして、読みを深める活動を設定する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対して考えはもっているものの、すすんで発表したり質問したりするところに課題が見られる。 ・日記や感想など、生活の出来事や物語の感想などを素直に表現できる児童が多い。句読点や段落の構成など、表記に課題が見られたり、習った漢字を使わずに平仮名で文を書いたりする児童への手立てが必要である。 ・書き順が違ったり、送り仮名が違ったりと、漢字を正しく使って文を書くことが苦手な児童への手立てが必要である。 ・本が好きな児童が多い一方で、読書活動に対してあまり意欲的ではない児童もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話し方の話型を一人一人の児童にしっかりと身に付けさせる。少人数での交流を行ったり、ハンドサインを活用したりして、自分と友達の考えの共通点や相違点を見付けられるように指導する。 ・モデル文を提示したり友達と考えを伝え合ったりしながら、文章を書くことに対する苦手意識を少なくしていく。また、見直しや校正を習慣付け、正しい表記が身に付くようにさせる。 ・学習した漢字の復習に力を入れて、何度も繰り返し練習することで定着を目指す。「とめ・はね・はらい」に気を付け、丁寧に書くように指導する。 ・教師からお薦めの本を紹介したり、単元に関する本を用意したりすることで、本を身近に感じ、興味や関心をもてるようにする。

3年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の習得に課題が見られた。 ・自分の考えや思いを、学級全体の中で発言する児童に偏りが見られた。反面、小グループでは、どの児童も自分の考えを述べる事ができていた。 ・物語文・説明文において、内容の大体を捉えることはできている。 ・段落の中心文や大事な事柄を読み取る力に課題が見られる。 ・自分の思いや考えを書く際に、適切な言葉を使って、相手に理解してもらおう文章を書くことに課題が見られる。 ・辞書の学習や習字の学習など、3年生から始まる新しい学習に意欲をもって取り組む児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を、様々な熟語で表したり宿題の練習量を増やしたりして定着を図る。 ・国語科の授業だけでなく、全ての授業時間において、ハンドサインを利用しながら自分の考えを表出する機会を設け、発表の抵抗感を減らすと共に、他の児童の考えや思いを、自分と比べながら聞けるようにする。 ・今後も、「どのような話か」という問いかけを行い、まとめられるよう促す。 ・繰り返し出てくる言葉や場面の転換等に注目させて、話の中心を捉えられるようにする。 ・語彙を増やす、時間をとる、話をしながら適切な言葉を見付ける等を指導の中で行っていく。 ・意欲を持続できるよう、できる喜び、獲得する喜びを感じられるような授業展開を工夫する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での話し合いになると、発言する児童が限られるところに課題が見られる。 ・グループでの話し合いでは、活発な話し合いをすることができる児童が多い一方で、自分の考えを発言できず、活動に参加することが苦手な児童もいる。 ・記録しながら聞くことは、各自メモの工夫をして取り組んでいる。 ・物語文で、登場人物の心情を叙述から読み取ることができる。説明文で、段落相互の関係に着目して、書き手の考えがどのように説明されているかを捉えるところに課題が見られる。 ・書く内容をはっきりさせて文章を書いている。文章の構成を考えて書くことには課題が見られる。 ・新出漢字の定着に個人差が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日頃から発表の場を多く設定したり、他教科も通じて自分の考えを表現したりする活動を意識して取り入れる。 ・工夫の見られるメモを紹介する等して、様々なメモの方法を知らせる。 ・段落相互の関係を明らかにする学習を取り入れる。また、要約に取り組むことで、文章の中心となる語や文を見付ける力を伸ばす。 ・文章を書く前に、中心となることや組み立て等を整理するよう指導する。 ・漢字練習とミニ漢字テスト、間違い直しに取り組ませる。

5年	<ul style="list-style-type: none"> ・説明文の内容を読み取り要旨をまとめる活動では、簡潔に分かりやすく書くことに課題がある。 ・漢字の書き取りテストでは、定着に個人差がある。また、習った漢字を文章の中で正しく使うことに課題がある。 ・グループワークでは、活発な話し合いが行われている反面、自分の思いを具体的に言葉にしたり、相手の気持ちを理解しようと質問したりすることに課題がある。 ・報告文をグループで作成する活動では、校内の教室等へ足を運び、工夫されている点を調査したり、インタビューで情報を得たりすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・要旨をまとめる際に内容が混在しないように、まとまりを明確にした記述の仕方を身に付けさせる。 ・漢字学習は、支援が必要な児童に個別のプリントやドリル等を行わせることで、基礎基本の定着を図る。また、小テストを定期的に行い、定着度を認識し、向上に生かす。 ・対話の練習として、児童が興味をもつテーマを設定し、話したい内容をノートにまとめたり質問したい内容を事前に整理したりする活動を取り入れ、話し合いの内容を高めるよう授業改善をする。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力調査では、10の問題区分の中で、全国平均の正答率を9つ上回る結果となった。中でも本校の児童は、「書くこと」の項目について10ポイント以上全国平均を上回る正答率となった。その一方、「我が国の言語文化に関する事項」では、およそ4ポイント全国平均の正答率を下回る結果となった。このことから、漢字を書いたり、仮名の大きさや配列に注意して書いたりすることを苦手とする児童が多いことが分かる。 ・日頃の漢字の小テストや50問テストの結果は、個々の能力差が大きく見られる。ノートやワークシートでは、習った漢字を正しく使うことに課題が見られる。 ・物語文の学習では、登場人物の心情や相互関係について捉えることが苦手な児童が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題への取り組み方を見直し、漢字再テストを活用して、漢字を学習する習慣を見直したり、新出漢字習熟させたりする。 ・文章を読み取る際は、日頃から中心となる文章を意識させて読み取らせることが必要である。文章の中から必要な情報を抜き出したり、重要な語句を見つけて筆者の主張を要約したりして、課題を克服できるようにする。 ・宿題への取り組み方を見直したり、漢字テストを行って漢字を学習する習慣をつけたりして、習熟を目指す。 ・小グループで登場人物の心情を考えさせたり、意見交換したりする時間を多く設定し、意欲的に登場人物の心情や相互関係を考えられるよう工夫する。 ・読書の時間を通して、様々な作品に触れる時間を設定したり、他教科でも人物の心情を考えさせたりする。